

◆学校教育目標：「いのち」を尊び、共に学び、共に輝き、生命力あふれて生きる「あかいつ子」の育成◆

令和2年度 赤井小学校 令和3年 3月8日 NO,19

さくら児童会ゆるキャラ



校長室だより 笑顔



◆さくら児童会スローガン：助け合い 夢に向かって あかいつ子◆

さくらだいこくん



赤井いぶき太鼓引継ぎ式 (5・6年生)



3月3日は子供たちの成長を願う桃の節句でした。その日に赤井いぶき太鼓二十八代目の6年生から5年生へ法被とばち、そして赤井小の和太鼓演奏の伝統が引き継がれました。6年生の演奏を注視する二十九代目の5年生のまなざしは真剣そのもの。6年生のように、そして、それを超えるような高い志も引き継いだようです。



集大成の演奏 (6年)



法被とばちの引き継ぎ

★★

リモート開催。でも笑いあり涙あり「6年生を送る会」



6年生と糸電話で秘密のお話 (1年)



運動会で踊った「よっちょれ」披露 (2年)



キレキレのダンス&マジック (3年)



6年生へ挑戦状!長縄跳び対決 (4年)



「校章マグネット」をプレゼント (5年)



お返しにNiziUの縄跳びダンス (6年)

写真をご覧くださいと「6年生を送る会」(3月3日引き継ぎ式後に開催)の楽しい様子が伝わってくるのではないのでしょうか。講堂にいるお世話になった6年生へ、密を避けるために各学年が順番に入って感謝の気持ちを込めて出し物やプレゼントを贈りました。それぞれの学年?担任?の個性が溢れる出し物で会は大変盛り上がりました。各教室ではリモートで会場の様子は見ることができ、「離れていても心は一つ」のあかいつ子の笑いとお涙の送る会になりました。

3月の朝会 校長講話

「世界の果ての通学路」

2021, 3, 4 リモート朝会

みなさん、おはようございます。昨日の赤井いぶき太鼓引き継ぎ式と6年生を送る会は素晴らしい式と会でした。(中略)今日は、ある映画の話をしようと思います。スクリーンの写真を見ながら聴いて下さい。その映画は「世界の果ての通学

路」です。見たことがある人もいるかもしれません。この映画には、4人の子どもたちが登場します。その4人がどうやって学校に登校しているのか？通学している様子を撮影した映画です。内容を紹介します。

★★★★☆☆★★★☆☆☆☆★★★★☆☆☆☆★★★★☆☆☆☆★★★★☆☆☆☆★★★★☆☆☆☆

一人目、ケニアのジャクソン君、11歳。なんと、片道15km、2時間掛けて登校しています。15kmは赤井小から日本三景松島町の入り口ぐらいの長い距離です。毎日歩いて学校へ通学しています。

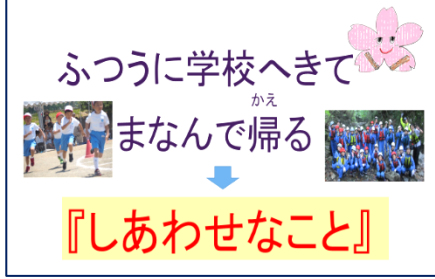
ジャクソン君はサンプル族の少年です。しっかり者の長男である彼は、毎日、6歳の妹のサロメさんを連れて、象やキリン、シマウマといった野生動物が出没するサバンナの中を小走りで学校に通います。ケニアでは毎年、4・5人の子供が象の襲撃に遭い犠牲となっていて、兄妹にとっても野生動物は恐るべき存在なのです。両親は幼いふたりが無事に学校に通えるよう、毎朝のお祈りを欠かしません。ジャクソン君の夢はパイロットになることです。

二人目。アルゼンチンのカルロス君は11歳。カルロス君は、片道18km、1時間30分もかけて通学しています。アンデス山脈の人里離れた牧場で暮らすカルロス君は、馬に乗って学校に通っています。5歳年下の妹のミカイラさんと一緒に、誰もいないパタゴニアの山々や美しい平原を駆け、毎日学校に通います。二人が乗る馬のキベリトとは大の仲良し。石ころだらけの崩れかけた危険な道を進めるのも、変わりやすい山の天候をものともせずに通学できるのも、冷静な馬のキベリトがいるおかげなのです。カルロス君の夢はふるさとの役に立ちたい思いから「獣医になりたい。」とっています。

★★★★☆☆★★★☆☆☆☆★★★★☆☆☆☆★★★★☆☆☆☆★★★★☆☆☆☆★★★★☆☆☆☆

三人目は、モロッコのザビラさん、12歳です。彼女は夜明け前に起き、片道22kmを4時間かけて歩いて行きます。モロッコのアトラス山脈の中心部にあるイムリル谷近くの村に生まれたザビラさんは、家族の中で初めて学校に行くことになりました。ザビラさんは毎週月曜日の朝、夜明けに起きて、友達ジネブさんやノウラさんと3人で22kmの道を歩き続け全寮制の学校へ向かいます。金曜日の夕方、3人の少女は同じ道を歩いて帰宅します。家族の中で初めて学校に通うことができ、字が読めない家族の期待を受けて、医者になる夢を持っています。

最後はインドのサミュエル君、13歳です。片道4km、1時間30分かけて学校へ通います。この4kmが大変なことになっています。インド南部のベンガル湾沿いの漁村。小さい体で生まれたサミュエル君は足に障害があり、歩くことができません。そのため、サミュエル君の通学には二人の弟が急ごしらえのオンボロ車椅子に兄を乗せて、4kmのでこぼこ道を1時間半、えっちらおっちら引っ張っていきます。毎朝トラブルの連続ですが、3人兄弟には困難を笑い飛ばす強い絆があります。今日も3人は兄弟ゲンカをしながら、ペリヤパティナムの学校へ通っています。将来は、「自分のような子どもを治したい。」と医者になる夢を持っています。



ふつうに学校へきて
かな かなで帰る
『しあわせなこと』

★★★★☆☆★★★☆☆☆☆★★★★☆☆☆☆★★★★☆☆☆☆★★★★☆☆☆☆★★★★☆☆☆☆

世界には、このような子どもたちがたくさんいます。でも、こんな大変な思いをして学校に通う子どもたちの表情はとも明るく、希望にあふれています。それは、学校で学んだことを生かして、「こうなりたい！」という将来の大きな夢、叶えたい夢があるからです。

みなさんは、どのように学校へ来ていますか？普通に学校へ来て、たくさん学んで帰ることができます。それが「ものすごく幸せなことだ」ということを、ぜひ知って下さい。そして、その幸せがいつまでも続くように、何をすれば良いのか？誰に感謝をするのか？を考えてもらえば校長先生はうれしいです。



6年生3月19日 卒業式
1年生から通った通学路
いろいろなことを思い出して

最後に、6年生の皆さんは、今月19日に卒業式を迎えます。赤井小への通学路を通るのもあと11日です。小さかった1年生から通い始めた通学路を、残りの日々はいろいろなことを思い出して通って下さい。6年間、晴れの日も、雨の日も、そして雪の日も、学校に来て先生や友達と勉強したり、遊んだり、笑ったり、泣いたり、その一日一日の積み重ねが6年間の成長の道になりました。6年間の通学路がいつまでも心に残りますように。今日は「世界の果ての通学路」のお話をしました。

3月はまとめの月です。次の新しい学年を意識して、挨拶に学習に運動に学校の合い言葉である笑顔で頑張りましょう。

「普通に毎日を過ごす」、「学校で勉強や運動ができる」、当たり前なのが幸せであることを考えて欲しくて、4年前に鑑賞した映画を取り上げました。・・・3月11日、東日本大震災から10年、本校では福幸祈念集会を開催します。